

令和5(2023)年度 下都賀地区小・中・義務教育学校主幹教諭・教務主任研修会 研修の振り返り

令和5(2023)年11月7日(火)実施
下都賀教育事務所 学校支援課

1 研修の目的・内容等

(1) 目的

下都賀地区の学校教育を展開していく上で、主幹教諭・教務主任としての資質の向上を図るとともに、教育課程の改善や子どもの資質・能力の育成に関してカリキュラム・マネジメントの視点から研修することを通して理解を深め、各学校教育のより一層の充実を図る。

(2) 会場

小山市桑市民交流センター



下都賀教育事務所
所長あいさつ

(3) 内容

○講話・協議

「教育課程の改善と子どもの資質・能力の育成」

～日々の教育活動とカリキュラム・マネジメント～

講師 栃木県総合教育センター研修部
藤田 知史 指導主事



地教委連合会教育長部会
代表あいさつ

2 本研修で確認したこと

(1) 講話から

○新しい教育課程で求められていること

- ・育成すべき資質・能力

(3つの柱の関連、「学びに向かう力、人間性等」の涵養を例に)

- ・児童生徒一人一人がその可能性を発揮することができるよう、教育活動の充実を図ること



藤田指導主事の講話・演習

○カリキュラム・マネジメント

- ・なぜ、カリキュラム・マネジメントを行うのか

(実態把握や3つの視点の必要性、非認知能力の重要性への気付き)

- ・事例

(抽象的な教育目標から具体的な行動目標へ、育成を目指す資質・能力を具体にした学校の取組)



(2) 協議から

- ・「学びに向かう力、人間性等」の涵養・育成に向けた実践紹介、講話からの気付き
- ・主幹教諭・教務主任としての関わり



3 本研修で学んだこと

【主幹教諭・教務主任の役割に関わること】

- ・ 学校教育目標の下、各教科等や行事等で育成を目指す資質・能力を明確にして計画を立てることができるよう、教務主任としての関わりを工夫していきたいと思いました。
- ・ どうすれば子どもの資質・能力を育成できるか、そのために教務主任として何をしなくてはいけないのか、同じような課題を持つ先生方とグループ協議ができ、大変有意義でした。
- ・ 経験値や考え方が多様な教職員が、「子どものために」を根本として共通理解し、同一歩調で教育活動に取り組んでいけるように教務主任として頑張りたいと思いました。
- ・ 今日の研修で学んだことを全教職員に周知し、全員が同じ視点を持って、一緒に教育課程の編成をしていけるように努めていきたいです。
- ・ ねらいは共有されていなければ、成果が得られることはなく、そのために主幹教諭・教務主任は「つなぐ」ことを大切にしないといけないと思いました。今年の反省を本当の意味で生かせるよう、形だけの反省にならないよう、先生方に働きかけていきたいと思います。



【資質・能力の育成、カリキュラム・マネジメント、教育課程編成に向けた取組に関わること】

- ・ 子どもたちに身に付けさせたい資質・能力を学校全体で確認し、イメージの共有を図ること、何のためにこの授業や行事があるのかを子どもたちがメタ認知できるように意識させることが大切であると改めて考えました。
- ・ 「学びに向かう力、人間性等」の涵養に向けて、子どもが自分たちで自主的な活動をし、解決していく過程がある教育活動、教育課程とすることの必要性が強く心に残りました。
- ・ 学んだことの意義を子どもに実感させることは、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の育成に向けて不可欠なことがよく分かりました。教職員のしかけが教育課程に反映できるよう、本日の研修で学んだことを生かしたいと思います。
- ・ 「学校生活そのものが意味のあるものに」という言葉が印象に残りました。そのために、目指す子どもの姿をより具体的にイメージし、活動の意味・目的を考えていきたいと思います。
- ・ 抽象的な教育目標から具体的な行動目標へとつなげること、つながっているかPDCAサイクルで検証・改善すること、取組の焦点化を図ること。これからの教育課程編成に生かしていきます。
- ・ 講話を踏まえての班別協議でしたので、他校の実践や課題が大変参考になりました。目の前の子ども、地域の実情をよく把握して、子どものよりよい成長につながるよう教育課程の編成に努めたいです。
- ・ 今回、事前課題として、学校教育目標を資質・能力で捉え直したことで、抽象的だった目標が一気に、もっとこの行事でこうしなければ…、という具体的な目標になったと感じました。次年度の教育課程編成の際には、具体的な表記を入れ込むことで、全教職員の共通理解を図っていかなければならないと強く感じました。



【その他】

- ・ 本研修を受け、本校の教育課程の良さにも気付くことができました。子どもや先生方の思いを受け止めて教育課程に反映し、先生方が生き生きと子どもと楽しく向き合える、子どもも教職員も笑顔になれるような学校にしていきたいと思いました。